

# 肥育農家が飼いやすい子牛を生産して日本一の産地にしよう！

年間約22,000頭の子牛がせり市に上場され、このうち去勢牛と、5割以上の雌子牛が肥育素牛として販売されています。

肥育農家にとっては子牛の段階で、どれだけの粗飼料を食い込んだかが増体と肉質に影響するため、せり市出荷までの飼養管理がとても重要です。

J A 都城では、子牛の能力を十分に発揮させるために粗飼料多給運動に取り組み、一定量以上の粗飼料を食い込んだ、肥育農家が求める肋張りが良くフレームのしっかりした子牛に「マニュアル子牛」の額章を与え、安心して飼える子牛の生産を目指しています。

## 1. マニュアル子牛の取り組みと実績

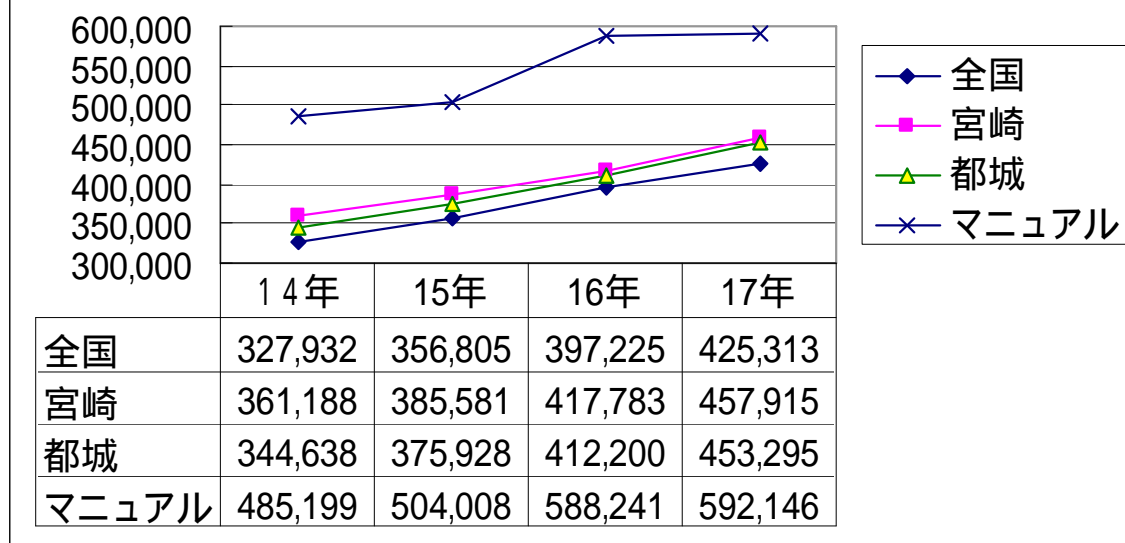
マニュアル子牛には次の取り組みが必要です。

粗飼料と濃厚飼料を計量して、飼養管理基準表に沿った量を与えましょう。粗飼料は乾草の場合、雌は3.5kg以上 去勢は4.0kg以上です。せり市初日を基準に300日齢未満で出荷しましょう。栄養度は、「6」以下です。太らせないようにしましょう。

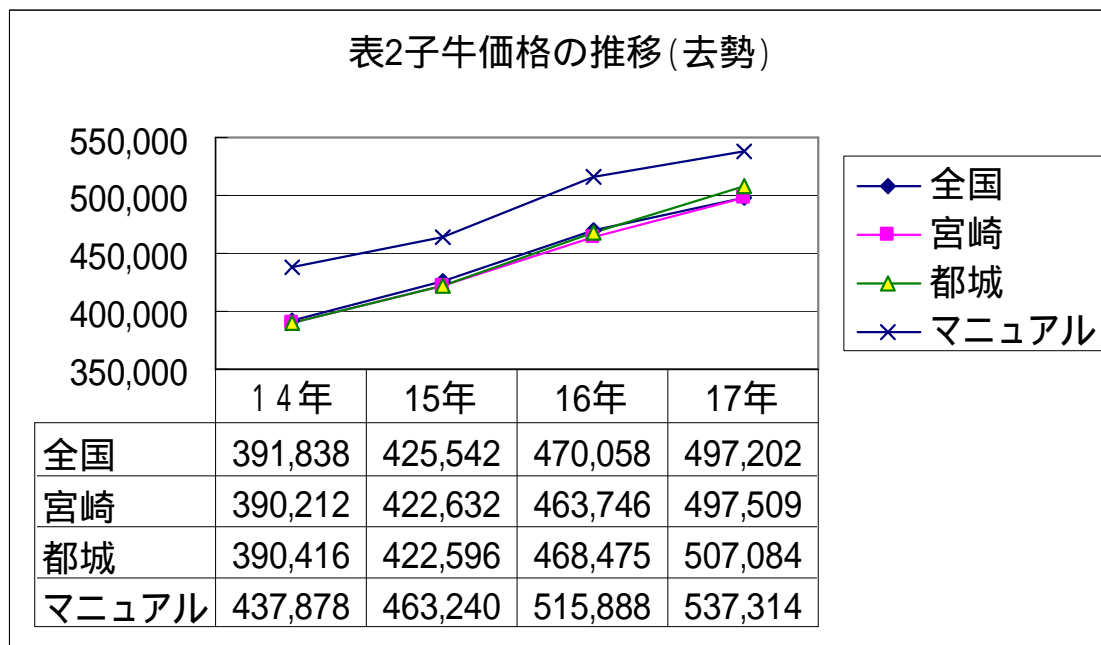
平成14年から開始したマニュアル子牛は表1・2の通り高価格で取引されています。

雌子牛は、余分な脂肪が付いていないことから高繁殖性への期待があり、繁殖牛として都城全体の子牛成績より10万円以上の高値となりました。

表1子牛価格の推移(雌)



去勢子牛も、枝肉重量やロース芯面積が大きくなる期待があります。肥育農家からも導入後、粗飼料の食いが良く飼い直しの必要が無くスムーズに肥育を始められると評価されています。子牛価格も都城全体の子牛成績より3万円～4万円高く購買されています。



### マニュアル子牛の枝肉成績

表-3の通り、平成14年、15年のマニュアル子牛に合格した素牛の枝肉成績を宮崎県全体の成績と比較しました。

マニュアル子牛の枝肉は重量、ロース芯面積、BMSともに宮崎県全体の枝肉より結果が良く、子牛の時期の粗飼料多給は肥育期の肉質向上に有効になることがわかります。

表3 マニュアル合格牛管内枝肉成績 (H14年1～12月セリ市分)

性別	合格頭数	枝肉判明頭数	平均枝肉成績				
			重量	ロース芯	BMS	単価	販売金額
去勢	65	65	447.0	56.4	5.1	1,869	836,157
メス	14	14	421.3	57.4	5.6	1,945	839,355

J A宮崎経済連取扱枝肉成績 (H15年4月～H16年3月)

性別	出荷頭数	平均枝肉成績				
		重量	ロース芯	BMS	単価	販売金額
去勢	12,698	423.6	53.6	4.8	1,758	748,300
メス	5,588	376.7	51.5	4.3	1,673	632,100

マニュアル合格牛管内枝肉成績

(H15年1～12月セリ市分)

性別	合格頭数	枝肉判明 頭数	平均枝肉成績				
			重量	ロース芯	BMS	単価	販売金額
去勢	43	42	462.3	57.6	5.4	2,039	944,844
メス	14	14	404.2	56.5	4.6	1,906	773,196

JA宮崎経済連取扱枝肉成績 (H16年4月～H17年3月)

性別	出荷頭数	平均枝肉成績				
		重量	ロース芯	BMS	単価	販売金額
去勢	12,344	434.9	54	4.8	1,916	836,300
メス	5,124	392.1	51.9	4.3	1,834	720,000

JA都城では、参加申込みのあったマニュアル子牛をせり市において胸囲・腹囲・栄養度を調査し、参加農家の皆様に結果を伝えながら今後の飼養管理に役立てて頂くようにしています。

マニュアル子牛の黄色い額章をつけた合格牛がせり市場内に入場すると、肥育農家の熱い眼差しを受けながらせりが開始されます。マニュアル子牛に高値がついた時、生産者の苦勞が報われる時です。これからも、肥育農家が飼いやすい子牛を生産して日本一の産地にしましょう。

